

景気動向調査報告書

平成 29 年 4 ～6 月期実績

平成 29 年 7 ～9 月期見通し

座間味村商工会

(平成 29 年 8 月発行)

1 調査目的

この調査は、四半期毎に、座間味村商工会が行う景気動向調査から同地区内における経済動向等に関する情報の分析を行い、効果的な経営支援の実施ならびに事業活動の参考とすることを目的とする。

2 調査要領

(1) 調査対象時期

平成 29 年 4 月から 6 月の第 1 四半期を対象とし、調査時点は平成 29 年 6 月 30 日とした。

(2) 調査対象企業

座間味村商工会地区内 40 企業。(うち有効回答数 33 企業)

業種内訳






業種	サービス業	宿泊業	飲食業	小売業・その他	合計
企業数	16	12	5	7	40
回答数 (回収率)	14 (87.5%)	9 (75.0%)	4 (80.0%)	6 (85.7%)	33 (82.5%)

(3) 各調査項目の数字及び記号の説明

この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは景気動向指数と呼ばれるもので、各項目調査についての【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています

この数値と記号の関係については、下記の通り

【お天気マークの説明】

晴れ (特に好調)	晴れ時々曇り (好調)	曇り (まあまあ)	曇り時々雨 (不振)	雨 (極めて不振)
				
+60.1 以上	+60.0～+20.1	+20.0～▲20.0	▲20.1～▲60.0	▲60.1 以上

1. 座間味村商工会地区における産業全体景況

全業種において景況感是好調、次期見通しも順調な推移を示す

2017年4-6月期の景況判断

2017年4-6月期の全産業の業況判断は、非常に良い0.0%・良い9.1%・やや良い30.3%であり、合計39.3%となった。一方、やや悪い15.2%・悪い0.0%・非常に悪い0.0%であり、合計15.2%となった。なお不変とする回答は45.5%であった。

この結果「景況が良い39.3」－「景況が悪い15.2」＝24.2となった（2016年同時期調査値は72.5であった）。同時期に行われた調査結果によると、沖縄県では「好転」－「悪化」＝11.3 全国では同▲15.9、となっており、座間味村はいずれをも上回っている。











※全国値、沖縄県値はそれぞれ中小企業庁、海邦総研の調査結果

2017年7-9月期の景況見通し

2017年7-9月期の全産業の景況判断見通しは、非常に良い0.0%、良い12.1%・やや良い48.5%であり、合計60.6%となった。一方、やや悪い9.1%・悪い0.0%、非常に悪い0.0%であり、合計9.1%となった。なお不変とする回答は30.3%であった。

この結果「景況見通しが良い60.6」－「景況見通しが悪い9.1」＝51.5となった（2016年同時期調査値は52.5であった）。同時期に行われた調査結果によると、沖縄県では「好転」－「悪化」＝24.4、全国では同▲14.6、となっており、座間味村はいずれをも上回っている。







【村内産業別業況】

	全体		サービス業		宿泊業		飲食業		小売業・その他	
29年4月～6月期（実績）		24.2		14.3		11.1		50.0		60.0
次期（見通し） （29年7月～9月）		51.5		64.3		11.1		75.0		80.0

2. 主要3項目（売上高・採算・資金繰り）から見た業種別景気動向







業種間にバラつきはみられるものの業況は順調に推移。シーズン期となる次期見通しも全体的に拡大傾向が予想される。

【全産業】回答数 33企業

	売上高		採算		資金繰り	
29年4月～6月期		15.2		18.2		9.1
次期見通し （H29 7月～9月）		27.3		18.2		15.2







4月～6月期の全産業の主要3項目の業況判断は前回調査での見通し結果（売上高5.7、採算2.9、資金繰り-8.6）からみても好調に推移してきたことが伺える。次期見通しについても売上高をはじめ全項目で15ポイントを上回る結果となっている。

【サービス業】回答数 14 企業

	売上高		採算		資金繰り	
	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント
29年4月～6月期		14.3		7.1		0.0
次期見通し (H29 7月～9月)		35.7		21.4		7.1







サービス業においては、売上高が対前年比で増えたと回答している割合が 14.3 ポイントであり客単価の増加 (28.6 ポイント) が主な要因であるとみられる。次期見通しでは全項目において好調に推移することが予想される。

【宿泊業】回答数 9 企業

	売上高		採算		資金繰り	
	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント
29年4月～6月期		0.0		11.1		11.1
次期見通し (H29 7月～9月)		0.0		0.0		11.1







宿泊業においては、前回調査の見通しでは悪いと判断する割合が多かったが、実績では前年並みであったことが伺える。次期見通しについても同水準での推移を予想している。

【飲食業】回答数 4 企業

	売上高		採算		資金繰り	
	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント
29年4月～6月期		0.0		25.0		25.0
次期見通し (H29 7月～9月)		50.0		50.0		50.0

飲食業においては、4月～6月期は全項目にて好調に推移している。来期見通しも引き続き好調に推移する見通しとなっている。但し、仕入単価の上昇が見られることから、採算性や資金繰りへの影響が懸念される。

【小売業・その他】回答数 6 企業

	売上高		採算		資金繰り	
	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント	天気アイコン	ポイント
29年4月～6月期		60.0		60.0		20.0
次期見通し (H29 7月～9月)		40.0		20.0		20.0

小売業・その他においては、4月～6月期は客数 DI が 40.0 ポイントと高いことから、売上高 DI と採算 DI にて好影響をもたらしたことが伺える。来期も好調に推移する見通しである。

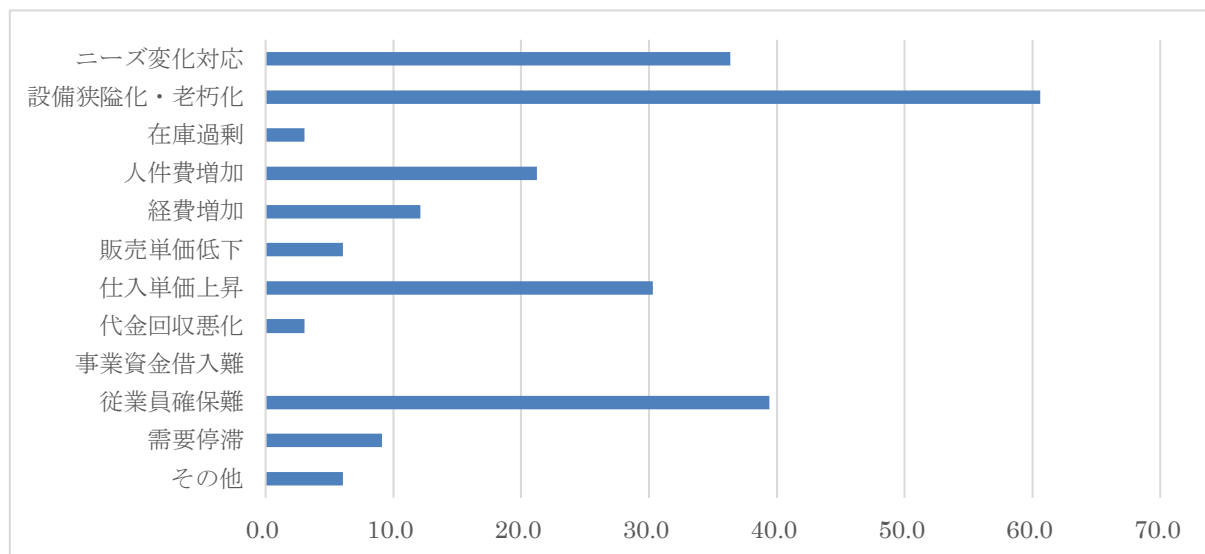
3. 仕入単価の動向について

	全体	サービス業	宿泊業	飲食業	小売業・その他
29年4月～6月期	39.4	21.4	44.4	100.0	40.0
次期見通し (H29 7月～9月)	30.3	7.1	44.4	75.0	40.0

仕入単価は、前期調査結果（31.4）より上がっており仕入単価の上昇傾向が高まっていることが伺える。特に飲食業においては全事業所にて仕入単価が上昇していると回答。仕入単価は原材料費として採算性と直結し資金繰りにも繋がってくるため、引き続き注視するとともに、各店舗においては販売単価の見直しが急がれる。

4. 経営上の問題点について

経営上の問題点は、下記項目があげられている。



施設老朽化・狭隘化 60.6%（前期 46.7%）、従業員確保難 39.4（前期 48.6%）、顧客ニーズ変化への対応 36.4%（前期 34.5%）が引き続き上位となっている。

特に施設老朽化・狭隘化を問題点とする回答が非常に多く、順調な観光入り込み客の推移に対応するために、一定の設備投資が必要な状況と思われる。

なお、前期では仕入単価の上昇を問題点としてあげる事業所が 42.9%と非常に増加したが、今期は 30.3%に低下している。

【方向性】

全体として 2017 年 4-6 月期の景況感是好調といえる。また、7-9 月期についても好調に推移すると判断している事業所が多数となっている。

観光入り込み客の推移は、当村における観光振興政策、各事業所の適切な経営の結果と考えられ、引き続き観光地としての適切な対応を継続することが重要といえる。また、消費者のニーズは常に変化しており、その見極めも不可欠な要素といえる。

一方で、好況であるゆえの問題点ともいえる、「施設老朽化・狭隘化」が多くの事業所において顕在化しつつあるものと推定される。大きな設備投資にはリスクが伴うものの、顧客満足度を高め、リピーターを確保するためには避けられない意思決定である。資金繰り環境、採算などに留意しながら、適切な対応を図る必要がある。